

斎賀医院壁新聞

文献情報と医院案内 斎賀医院ホームページに戻る場合戻るボタンをおしてください

検索ボックス

<< 2023年03月 >>

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

最近の記事

(03/22)多発嚢胞腎
(03/20)新しい脂質異常症治療薬・ベンベド酸
(03/18)5～11歳のコロナワクチンの間隔
(03/15)1型糖尿病にもSGLT-2iとGLP-1RAの併用は効果的
(03/13)子宮頸がんワクチン(HPV)の早期導入(9～10歳)

最近のコメント

前立腺癌の積極的監視に直腸指診は不要? by (03/04)
前立腺癌の積極的監視に直腸指診は不要? by (02/28)
高齢者の尿酸降下薬・ザイロリックの初期用量 by (12/14)
新型コロナウイルスの死亡率は世界で90%減少 by (11/27)
新型コロナウイルスの死亡率は世界で90%減少 by (11/27)

タグクラウド

カテゴリ

小児科(231)
循環器(265)
消化器・P P I(150)
感染症・衛生(299)
糖尿病(135)
喘息・呼吸器・アレルギー(103)
インフルエンザ(110)
肝臓・肝炎(65)
薬・抗生剤・サプリメント・栄養指導(52)
脳・神経・精神・睡眠障害(54)
整形外科・痛風・高尿酸血症(38)

<< 高齢者の尿酸降下薬・ザイロリックの初期用量 | TOP | インフルエンザとコロナの同時流行のシーズン? >>

2022年12月06日

糖尿病治療薬・フォシーガの心不全に対する効果

糖尿病治療薬・フォシーガの心不全に対する効果

Effect of Dapagliflozin on Cause-Specific Mortality in Patients With Heart Failure Across the Spectrum of Ejection Fraction



糖尿病治療薬のSGLT-2阻害薬のフォシーガが心不全に対して効果があり、最近では収縮率の保たれている心不全（HFpEF）にもそれなりの結果が出ていることは、私の以前のブログでも紹介しました。しかし、心不全の層別化と効用に関して、具体的には不明確でした。

今回雑誌JAMAに、心不全を横断的に調査したメタ解析が載っていましたのでブログします。DAPA-HF研究（駆出率40%以下）とDELIVER研究（駆出率40%以上）の二つの研究からの論文です。

- 対象者はNYHA分類のⅡ～Ⅳもしくは、血液検査のBNPの上昇です。
主要転帰は
・心不全の増悪（入院もしくは救急外来受診）
・心疾患による死亡です。
フォシーガ10mg/日群とプラセボ群に振り分けています。
- 結果は
11,007人が登録し、死亡した人は1,628人でした。（平均年齢は71.1歳、70%が男性）
死亡例の中で心疾患が872人（53.5%）、非心疾患が487人（29.9%）です。
心疾患の内289人（33.1%）が心不全、441人（50.6%）が突然死、69人（7.9%）が脳卒中、心筋梗塞が47人（2.9%）でした。
フォシーガ群とプラセボ群の比較は、下記のグラフをご参照ください。
- 結論
フォシーガ群は心不全の全ての層に効果がありましたが、特に心不全の増悪と突然死に関して、リスクを軽減していました。
- 討論
突然死の原因としては不整脈が想定されますが、現実には心不全から不整脈を誘発し突然死が発生する可能性は少なく、腎機能の低下、肺高血圧、左室機能低下が関与しているため、それに対してフォシーガが優位に働いたと想像できます。
非心疾患の死亡にはフォシーガの効果はありませんでしたが、様々な要素が加わるためとしています。

ワクチン(88)
癌関係(11)
脂質異常(30)
甲状腺・内分泌(20)
婦人科(12)
泌尿器・腎臓・前立腺(46)
熱中症(7)
日記(24)
その他(86)

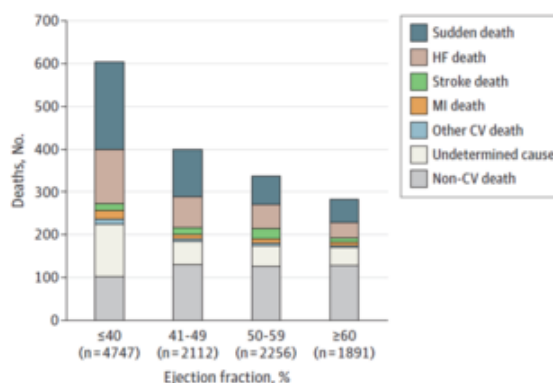
過去ログ

2023年03月(11)
2023年02月(14)
2023年01月(15)
2022年12月(12)
2022年11月(16)
2022年10月(15)
2022年09月(13)
2022年08月(17)
2022年07月(13)
2022年06月(15)
2022年05月(15)
2022年04月(14)
2022年03月(15)
2022年02月(14)
2022年01月(16)
2021年12月(14)
2021年11月(17)
2021年10月(17)
2021年09月(13)
2021年08月(16)
2021年07月(12)
2021年06月(16)
2021年05月(16)
2021年04月(14)
2021年03月(18)
2021年02月(19)
2021年01月(16)
2020年12月(17)
2020年11月(15)
2020年10月(17)
2020年09月(19)
2020年08月(14)
2020年07月(17)
2020年06月(14)
2020年05月(21)
2020年04月(18)
2020年03月(18)
2020年02月(18)
2020年01月(19)
2019年12月(14)
2019年11月(15)
2019年10月(18)
2019年09月(18)
2019年08月(14)
2019年07月(14)
2019年06月(16)
2019年05月(14)
2019年04月(18)
2019年03月(19)
2019年02月(19)

以降はカテゴリーで検索してください。

[RDF Site Summary](#)
[RSS 2.0](#)

Figure 1. Number of Deaths by Adjudicated Cause and Ejection Fraction Category for Pooled DAPA-HF and DELIVER Populations



CV indicates cardiovascular; DAPA-HF, Dapagliflozin and Prevention of Adverse Outcomes in Heart Failure; DELIVER, Dapagliflozin Evaluation to Improve the Lives of Patients With Preserved Ejection Fraction Heart Failure; HF, heart failure; MI, myocardial infarction.

(上の図から、非心疾患の死亡は駆出率とはあまり関係ないようです。しかし、心不全患者さんの死亡原因は、多くが突然死と心不全の増悪です。いかに心不全の管理が重要かを示しています。)

Figure 2. Variation in Incidence Rates of Death by Cause and Continuous Left Ventricular Ejection Fraction for Pooled DAPA-HF and DELIVER Populations

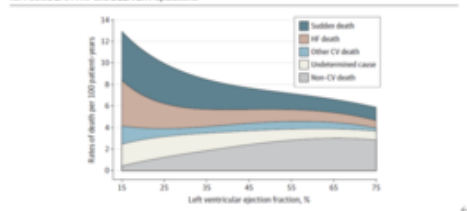
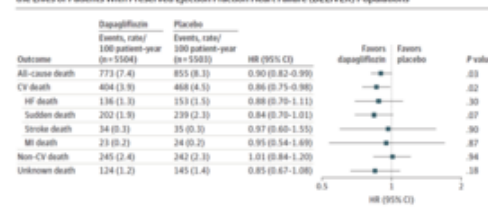


Figure 3. Effect of Dapagliflozin Compared With Placebo on Cause-Specific Mortality for the Dapagliflozin and Prevention of Adverse Outcomes in Heart Failure (DAPA-HF) and Dapagliflozin Evaluation to Improve the Lives of Patients With Preserved Ejection Fraction Heart Failure (DELIVER) Populations



上の図で左に変位していれば、フォシーガが優位です。

私見)

高齢者の患者さんからSGLT-2阻害薬は栄養分が出て行ってしまう、シワシワになってしまったと訴えられました。

心不全も合併しているので服用を続けてと説明しましたが、フォシーガの5mgは心不全の適応でないのが欠点でしょうか。

0

いいね！

ツイート

ブックマーク

【糖尿病の最新記事】

[1型糖尿病にもSGLT-2iとGLP-1..](#)

[フォシーガの心不全における費用対効果](#)

[新しい血糖降下薬のコストパフォーマンス](#)

[Ⅱ型糖尿病の血糖降下薬・微小血管と心血管..](#)

[2型糖尿病における血糖降下薬](#)

posted by 斎賀一 at 18:32 | [糖尿病](#)

